

えだわんだより

1月号

令和7年12月24日発行

共に伸び 共に輝け 感謝・感動 しなやかえだわん

㊦ 笑顔で あいさつ

㊤ だれもが 安心

㊦ 一人一人 みんなちがって みんないい

㊤ がんばろう 最後まで

㊦ 信じ合おう 友達



子どもの目が輝くとき



文と絵

校長 北村 高則

授業中、子どもの目が輝くときがあります。

「今日はここまで。」

「まだやりたい！」

そこには、誰かに言われて鉛筆を動かす姿ではなく、自分の意志で学びに向かう姿があります。

ではどんなときに、このような状態になるのでしょうか。



- 1 自分の力では解決できない問題に出会い、でも「あと少し」でできそうなとき
- 2 挑戦を続け、今までの自分を越えられそうだと感じたとき
- 3 友だちと競い合い、認め合いながら、学びが進んでいるとき
- 4 問いが次々に生まれ、自分で考え、それを確かめたいとき
- 5 練習や試行錯誤を重ね、できなかったことが「できる」に変わったとき



この5つに共通している言葉は「もう少し」です。
挑戦のすぐそばに手応えがあるとき、子どもの目は輝きます。



で解決できそうな見通しをもった

とき子どもの目は輝くと言っていいでしょう。

学校でもご家庭でも、子どもたちが感じる「もう少し」を、温かく応援していきましょう。



もう少し(こたえ)